

会 議 録

1 会議名

平成27年度第3回大島区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

1 協 議（公開）

(1) 大島区地域活動支援事業の追加募集について

3 開催日時

平成27年6月4日（木）午後2時から午後2時30分まで

4 開催場所

大島コミュニティプラザ2階 市民活動室1

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委 員：石塚隆雄（会長）、岩野幸子、内山愛治、高橋利津子、武江一義、中村朝彦
早川丈夫、丸田新一、横尾榮一、吉原忠正
- ・事務局：大島区総合事務所 本山所長、太田次長、武田市民生活・福祉グループ長、
池田班長、原主事（以下グループ長はG長と表記）

8 発言の内容

【石塚会長】

- ・会議の開会を宣言
- ・岩野副会長の欠席を報告
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・会議録の確認：中村委員に依頼
協議事項（1）「大島区地域活動支援事業の追加募集について」事務局に説明を求める。

【池田班長】

資料 No.1 により説明

- ・申請があった 11 事業中 7 事業を採択し、残額が 63 万 8 千円となっている。
- ・事務局の提案としては、6 月 15 日から 6 月 30 日までを追加募集期間とし、7 月上旬から中旬に提案のあった事業を審査していただく。その審査結果を、7 月中旬から下旬に提案団体へ採択・不採択を通知というスケジュールで考えている。
- ・住民への周知は、地域協議会だよりの配布と防災行政無線を使って行う予定。

【石塚会長】

事務局の提案では、追加募集期間を 6 月 15 日から 30 日までの 16 日間としているが、他に意見があれば求める。

(委員から「なし」の声あり)

では、事務局の提案どおりでよいか。

(委員から「はい」の声あり)

それでは、追加募集期間を 6 月 15 日から 30 日と決定する。これに基づき、次回の地域協議会は追加事業の審査となる。

協議事項は以上であるが、その他として、自主的審議事項の提案書が本日、横尾委員から提出された。次回の地域協議会で、これを自主的審議事項として審議するかを決定したい。

次回の日程は、追加募集期間が 6 月 30 日までなので、7 月 10 日から 15 日頃でどうか。また会議終了後は、地域協議会だよりの広報委員会も併せて開催したい。

【本山所長】

できるだけ早く審査を行うこととし、10 日はどうか。

【石塚会長】

7 月 10 日でよろしいか。

(委員から「はい」の声あり)

では、次回の地域協議会は 7 月 10 日に開催する。

その他として、他に委員から意見や連絡事項があれば求める。

【丸田委員】

事務局へふるさと納税について質問する。

先日、東京都で大島区出身者の保倉秋葉会総会が行われ、市で作成したふるさと納

税に関するパンフレットを配付した。その際、寄附をした場合に大島区へそれなりの影響があるのかと質問された。大島区出身者が大島区へ寄附したいと言っても、市全体としての収入になり、どの事業に寄附が充てられているのか明確ではない。新聞記事によれば十日町市では、合併前の旧市町村にそれぞれ寄附ができるような仕組みが作られているという。

十日町市のように旧市町村単位へ寄附できる仕組みを作れば、寄附する側も生まれ故郷のためになるという気持ち、また我々地元としてもお礼に特産品をとという気持ちで、お互いに相乗効果があり、それなりの成果が現れるのではないかと思う。昨年もお話したが、ぜひ検討願いたい。

【石塚会長】

事務局に回答を求める。

【本山所長】

十日町市では、旧市町村単位に寄附できる仕組みを作られたということで、実績が上がってきているという話は聞いている。ただ、詳細を把握していないが、例えば予算計上をどのようにしているのかなど疑問に思う点もある。今のところ、上越市では旧市町村単位に寄附できる仕組みは考えていない。まずは、十日町市の現状を聞いてみる。

【丸田委員】

前向きに検討してほしい。

【本山所長】

市も合併から10年が経過して、様々な考え方があると思うが、旧町村、合併前上越市という捉え方はどうかという意見や、全市一体となって取組をするべきという意見が実際にある。

【石塚会長】

難しい問題だと思う。もし、旧市町村単位に寄附できる仕組みが軌道に乗り、額が大きくなれば、合併前上越市に入る寄附金は必然的に一番多くなる。逆に、大島区は、寄附金がゼロに等しいということになれば、また、そこに問題が出てくるのではないか。

【丸田委員】

大島区出身者は、大島区のために使ってもらいたい気持ちで寄附している。その気

持ちを素直に受け止めなければならない。

【本山所長】

実際に運用することは非常に難しいと思う。上越市の場合は、自分の希望するメニューがあり、それを選んで寄附できるようになっている。

【丸田委員】

旧市町村単位に寄附ができるようになれば、もっと寄附金が増えてくると思う。

【本山所長】

いずれにしても、十日町市に確認してみる。

【石塚会長】

他に意見や質問があれば求める。

【本山所長】

横尾委員から、自主的審議事項の提案書について説明していただいてはどうか。

【石塚会長】

横尾委員に説明を求める。

【横尾委員】

提案内容は少子化対策についてである。全国的に少子高齢化が進んでおり、大島区においても少子化が特に顕著で、今年度の大島中学校の生徒数は31人、大島小学校の児童数は44人である。今年度の大島小学校への入学は8人だったが、来年度は4人と聞いている。このまま、少子化が進んでいけば、保育園あるいは小・中学校統廃合も行われ、大島区の高齢化率がより一層高くなることが考えられる。少子化が進めば、地域の活性化もなくなる。現に今年度いっぱい大島区体育協会が解散し、更には大島音楽協会も解散する方向にあると聞いている。

長野県下條村では、数年前から少子化対策に取り組み、合計特殊出生率が、2.0近くまで上がり、全国でもトップクラスの数字となっている。そこへ視察に行けば、大島区でも実践できる取組があるのではないかと思う。

我々もあと1年で任期満了となることから、残り1年間をかけて、この少子化対策について審議したいと思い、提案した。

【石塚会長】

今の説明を踏まえ、この提案について検討し、委員それぞれの考えを持って次回の地域協議会に臨んでいただきたい。

・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

大島区総合事務所総務・地域振興グループ TEL : 025-594-3101 (内線 61)

E-mail : oshima-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。